



勉強のおもしろさや勉強する理由がわかってくる!

やる気の法則。

第8回：小論文・志望理由書

取材・文/太田知子
イラスト/桔川 伸

小論文や志望理由書を書こうとしても「何を書いたらいいかわからない」「感想文のようになってしまう」という人は多いのでは? 「まずは志望分野に関する知識と自己理解を深めることが第一歩」と語る小柴先生。難しい問いかけへの対処法も教えてくださいました。



法 則 1

どんな自分で勝負するか
決めるために
外部からの刺激を浴びる

書き始める前に
自分の興味の方向性を定める

小論文や志望理由書は、いきなり書き始めても、うまく書けません。まず「自分が何者か」を考えると、そこからスタートしましょう。

「何も好きなことがない」、「志望分野が決まらない」という人は、図書館で気になる本を数冊借りる、大学などのパンフレットを数冊取り寄せるなどしてください。バラバラとめくって興味がある言葉や写真をみつけたら、「どうして魅かれたのかな?」と考え、そのときの思いを書きとめます。

また親や友人にインタビューして、自分の生い立ちや性格について知ることも同時に進めます。小学生からの通知表をすべて見返すのもいいでしょう。このような地道な作業をもとに、徐々に「興味のある分野の知識」と「自分の理解」を深めていきます。

情報を鵜呑みにするのではなく
自分の内面に取り入れ醸造する

本を読むなどの外部刺激を受けることを、単なる「ネタ集め」だと思わないでください。自分の中にある価値観や、忘れていた記憶と照らし合わせて、自分の考えや意見を深める作業です。たくさん刺激を受けるほど、「表現の引き出し」が増えてきて、「書きたい」という気持ちが出てくると思います。そうなら今度は「書いては直す」作業を繰り返して、徐々に「書きたいことを短時間で書き切る力」をつけていくようにしましょう。



法 則 2

「あなたの意見は?」と
問われたら深刻にならず
仮に〇〇だと考えてみる

意見は「とりあえず」決め
肩の力を抜けば言葉が浮かぶ

小論文では、「消費税の増税に賛成か、反対か?あなたの意見を述べよ」など、非常に大きな問題について、イエスかノーか、迫られることがよくあります。こういうときありがちなのが、「そんなこと、私にはわからない」という戸惑い。でもこれはあくまで小論文の課題ですので、そんなに深刻に考える必要はありません。「人間性が問われる」とか、「賛成なら不合格になる」というものではなく、「論理的で内容の充実した文章が書けるか」が評価の対象。「仮に賛成として考えると、どういう展開ができるかな?」など、「とりあえずの意見」を決めればOK。肩の力を抜くと、案外柔軟に考えられると思います。

難しい問題は、とにかく
志望分野にからめて答える

また小論文も志望理由書も、自分が興味のある分野を軸にして考えるとスムーズです。たとえば小論文で「意見や価値観の異なるもの同士の対話とはどんなものか?具体例を挙げよ」という問題があったら、あなたはどうか答えますか?
政治や経済に興味があるなら、TPPについて各国が粘り強く交渉し、決着点を見いだしたこと、文学に興味があるなら、日本文学は海外の批評にも耳を傾けるとよいことをあげると、自分らしさを発揮する秘訣です。

今回の「やる気の法則。」を教えてくださいました先生!



小柴大輔先生

「受験サプリ」で現代文、小論文の講座を担当。東京都内の予備校他、約10年にわたり島根県の私立高校で週1回小論文や志望理由書の指導に当たる。ていねいな興味の発掘や添削指導によりAO・推薦入試合格者を多数送り出している。

小柴先生の講義も公開中!

受験サプリ

<https://jyukensapuri.jp/>

月額980円で人気講師の受験対策講義を見放題。スマホやPCでいつでもどこでも自分のペースで勉強できるネット予備校。全国140大学以上の過去問無料ダウンロードや合計1万語以上の暗記カードも提供。



法 則 3

入試に必要ななくても
志望理由書は
一度は書いて損はない

自分が何者かクリアになると
何のために勉強するかわかる

「AO・推薦入試に挑戦しない」、「志望校に小論文の試験がない」という人も、一度まじめに「志望理由書」を書いてみては? 「どうして勉強しなければならぬの?」「勉強が嫌でしかない」と思う人ほどおすすめです。自分とはどんな人間で、なぜその学問を学びたいのか、どうしてその学校を志望するのかを実感を含めて書くことができれば、なぜ今勉強しなければならぬかがわかるはず。

いざ、書いてみたら本当は興味のない分野だと気づくかも(その場合、志望変更も検討を)。逆に自分の思いに気づき、志望動機が強くなる可能性も。ぜひトライしてみてください。